

「あか し ひろ あきら」
明石博高
— 京都近代化の先駆者 —

企画展

神田外語大学

国際日本文化研究センター

京都府立京都学・歴彩館

共催



会期

2022年

4月16日(土)~6月5日(日)

会場

京都府立京都学・歴彩館 1階展示室

入場無料

【開室時間】 9:00~17:00 【休館日】 4月29日(祝)、5月3日~5日(祝)、11日(水)



言葉は世界をつなぐ平和の礎
神田外語大学



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies

京都府立 京都学・歴彩館
Kyoto Institute, Library and Archives

明治元年(1868)、新政府が成立、翌年戊辰戦争も終結した。新政府のもとで首都となることを京都の人びとは切望していたが、願い届かず、東京奠都に伴い、京都の経済は大きく衰退した。その京都の低迷期を、西欧諸国の技術・学問を取り入れ、文化や産業の振興で脱却しようと尽力したのが、当時、京都府の参事(後に知事)であった榎村正直、顧問の山本覚馬、そして青年蘭方医の明石博高である。彼らは、日本初の学区制小学校設立を皮切りに、集書院(図書館)や勸業場、舎密局、療病院などを建設し、驚異的なスピードで革新的施策の推進を図っていった。



本展では、とりわけ実動的に推進役を担った明石博高にスポットを当て、神田外語大学、国際日本文化研究センター(日文研)、京都府立京都学・歴彩館の豊富な資料100点余をもとに、知られざる明石の人物像、そして19世紀初頭から京都に根付いた蘭学・洋学を背景に、明石が推し進めた近代化のあゆみに迫る。

第1部 京の洋学——明石博高活躍の歴史的背景

京都の蘭学・洋学の特徴や幕末から明治前期における京都の出版文化を紹介します。

第2部 明石博高——京都近代化の先駆者

京都舎密局や療病院といった近代医療・理化学関連施設の創立など、明石博高が推し進めた京都近代化の歩み、さらにお雇い外国人と明石との密接な繋がりを考察します。

共催企画展「明石博高一京都近代化の先駆者」 開催記念シンポジウム

日時 2022年5月21日(土)14時開会～16時

会場 京都府立京都学・歴彩館
大ホール(抽選240名)

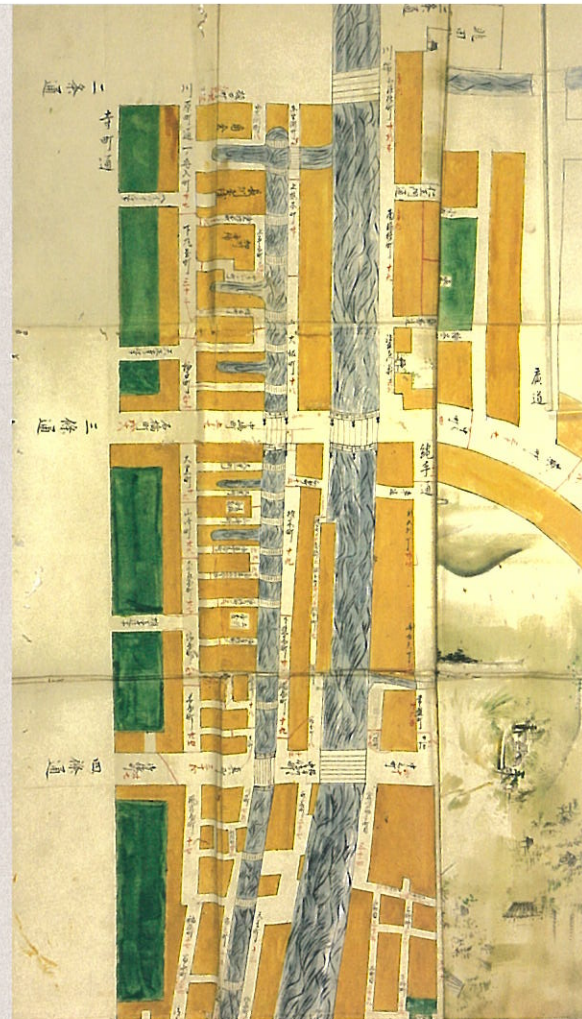


※要:事前申込。詳細は4月初旬に日文研のHPで公開予定です。

[挨拶] 井上章一(国際日本文化研究センター所長)
佐野元泰(神田外語大学理事長)

[話題提供] 松田清(神田外語大学客員教授)
光平有希(国際日本文化研究センター特任助教)

[パネル討論] 司会 松田利彦(国際日本文化研究センター副所長・教授)
パネラー フレデリック・クレインス(国際日本文化研究センター教授)
町田明広(神田外語大学准教授)
松田清(神田外語大学客員教授)
光平有希(国際日本文化研究センター特任助教)



二条木屋町地図(部分)三町組作成
文政元年(1818)(若林菟書)

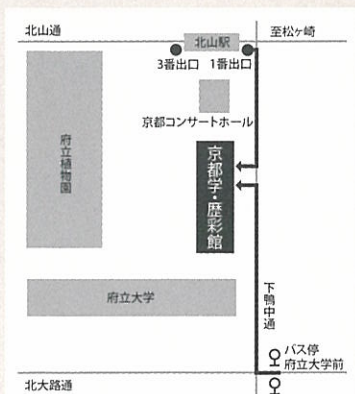


銅版新鑄極細書画便覧
松田緑山鉄筆
安政6年(1859)
汽車図 岡田春燈齋刻
(若林菟書)



「京都舎密局印」

ギラルジン『教養人・工場のための化学』第1巻 無機化学
ハウダ 1851年刊
明石博高手沢本(若林菟書)

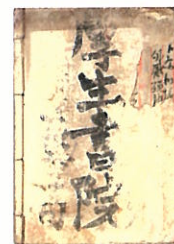


京都府立京都学・歴彩館

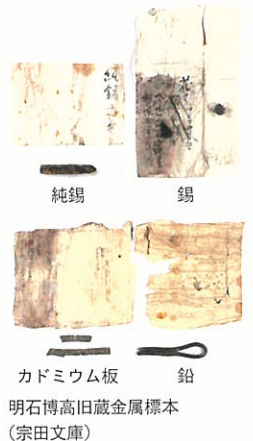
〒606-0823 京都府京都市左京区下鴨半木町1-29

〔アクセス〕

- 京都市営地下鉄烏丸線
「北山駅 [K03]」(1番、3番出口) 南へ徒歩約4分
- 北山駅前(京都市バス4系統・北8系統) 南へ徒歩4分
府立大学前 北へ徒歩約6分
- 名神高速道路京都南ICから
車で京都市内地下鉄北山駅方面へ約45分
※敷地内にコインパーキングを併設しています。
[タイムズ京都学・歴彩館] 最大料金:平日 800円/日
休日 1,100円/日



明石博高診療処方録
明石博高筆
明治16年(1883)～
40年(1907)13冊の
うち(宗田文庫)



純錫 錫
カドミウム板 鉛
明石博高旧蔵金属標本
(宗田文庫)